

令和6年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

ふ り が な	かどのえいこじどうぶんがくかん(つうしょう:『まほうのぶんがくかん』)しんちくこうじ
1. 事業(施策)の名称	角野栄子児童文学館(通称:『魔法の文学館』)新築工事
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	令和 3年 10 月 29 日 ～ 令和5年1月4日
3. 事業費(工事費)	1,276 百万円
4. キーワード	公園との一体整備、魅力的な景観形成、児童文学の素晴らしさを伝える
5. 事業概要	
「国際アンデルセン賞作家賞」の受賞者であり、江戸川区にゆかりのある角野栄子氏の世界観や、児童文学の素晴らしさを発信する施設として、江戸川区南葛西のなぎさ公園内に竣工した。豊かな自然の中で風景と一体となった建築は、世界の子どもたちが集う場所となることが期待される。	

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(b) 既往技術の創意工夫、活用	()
アピールする 2)「秀でた成果」	(a) 当該事業による本来目的の効果 (e) 良好な景観形成の実現 (g) バリアフリー・ユニバーサルデザインの実現	()

7. 特にアピールしたい点
建築場所には、区が一体的に整備を進めている総合レクリエーション公園内の『展望の丘』を選定した。建物は既存樹木を残すように配置計画され、丘を削り建物を埋め込むことで、丘に沿う平屋のような外観でありつつ広がりのある豊かな内部空間を実現している。花びらを模した屋根も、周囲の風景と調和し、軽やかでありながらも印象的な外観を演出している。 公園と一体的に整備しバリアフリー化することで、誰もが期待感の高まるアプローチを経て、角野氏の世界観を楽しめる場所となっている。

8. 事業を代表する写真及びキャプション



景観に調和する外観



広がりのある内部空間

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

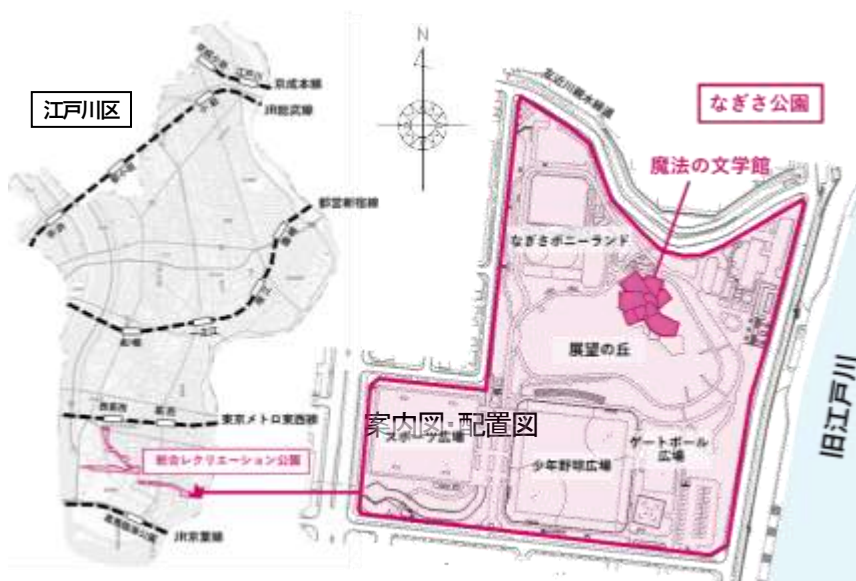
【建物概要】

所在地: 江戸川区南葛西七丁目3番1号
(総合レクリエーション公園東端
なぎさ公園敷地内)

・規模 敷地面積: 63,028.94 m²
建築面積: 1,141.31 m²
延床面積: 1,659.38 m²
地上3階建て

・構造 鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)

・高さ 最高軒高: 10.305m
最高高さ: 10.615m



【事業概要】

『魔女の宅急便』などの作者として知られる児童文学作家・角野栄子氏は幼少期から20代前半までを江戸川区北小岩で暮らし、幼い頃に見たり感じたりした江戸川の風景や河川敷で遊んだ体験などが作品にも影響を与えている。角野氏は35歳で作家デビューしてから数々の文学賞を受賞。平成30年には児童文学のノーベル賞とも言われる「国際アンデルセン賞作家賞」を受賞。区はこの偉業を称え「区民栄誉賞」を創設し、記念すべき最初の受賞者として角野氏を表彰した。

角野氏の偉大な功績を広く伝えとともに、未来を担う子どもたちがその世界観を享受できるような施設をつくることを目的とし、本事業が進められることとなった。読む人に夢や希望を与える角野氏の作品を数多く配置し、子どもたちが児童文学に親しみ、豊かな想像力を育む場となることを目指した児童文学館である。

平成31年9月に基本構想を発表し、同年10月から12月にかけてプロポーザルを実施。令和3年10月に着工、令和5年1月に竣工し、造園工事等を経て同年11月に開館した。

開館に至るまでの期間、ロゴや愛称の公募やアクセス方法についてのアンケート、クラウドファンディング等を実施。広報誌や雑誌への掲載も積極的に実施し、開館への期待度を高めた。

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

【既往技術の創意工夫、活用】

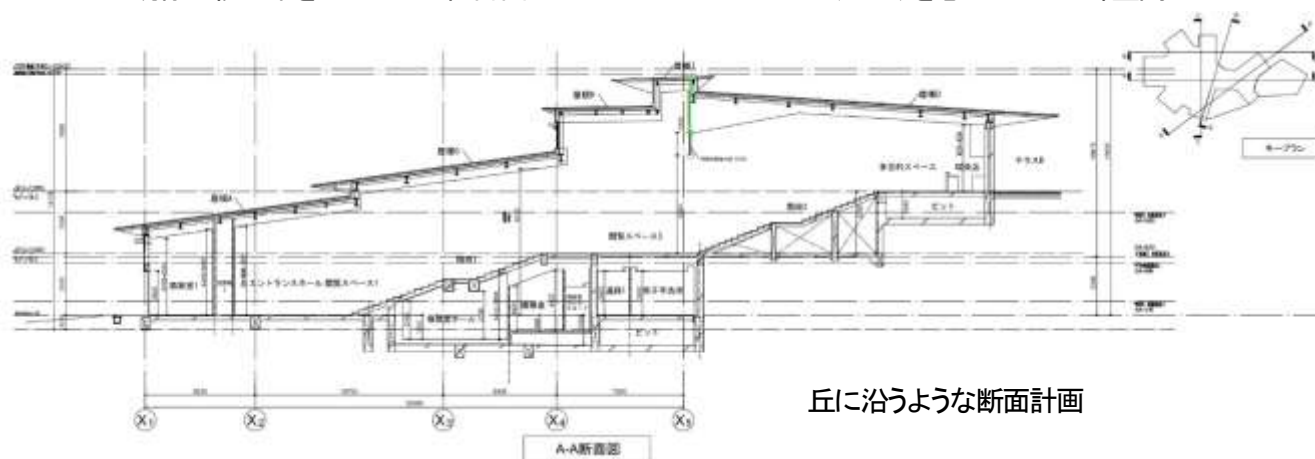
環境と景観保全の観点から、公園内の樹木を可能な限り生かしたランドスケープと建物配置となっている。公園内の見晴らしの良い丘に沿うように配置された建物は、丘の下から見上げても圧迫感のないよう、丘を削る形で設計され、削り取った土は丘を再形成するのに活用した。外観のボリュームを抑えつつ、一歩中へ入ると吹き抜けに設けられた大階段が来場者を出迎える。



既存の桜の木を生かした配置計画



広がりを感じられる内部空間



丘に沿うような断面計画

『フラワールーフ』と名付けられた特徴的な屋根は、花びらが広がるようなデザインとなっており、周囲の景観と調和しつつ、印象的なファサードを演出する。また、高ハゼ仕様とすることで、太陽の動きによって陰影が移り変わり、単色でありながらも表情豊かな外観を形成している。



フラワールーフ上から



高ハゼ仕様

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

【当該事業による本来目的の効果】【良好な景観形成の実現】

指定管理者制度を利用して運営される館内には、企画展を行うギャラリー、シアター、カフェやショップ等が設けられ、角野氏の著書をはじめ、角野氏が選んだ児童書や絵本約 10,000 冊が、子どもたちの自主性を生かすべく、あえてあまり分類せずに配架されている。本は当日に限り外へ持ち出して読むこともでき、園内の好きな場所で児童文学の世界に浸ることができる。公園内には、建物と環境に調和するよう設計された遊具や丸く剪定された木等、児童文学の世界を感じさせる仕掛けが盛り込まれ、建築と造園と展示との境界が曖昧となり、子どもたちの想像力や創造力を膨らませる。



好きな場所で読書を楽しめる



建築・造園・展示が一体的につながる

【バリアフリー・ユニバーサルデザインの実現】

なぎさ公園内には四季折々の草花が咲き乱れ、春にはカワツザクラ、ソメイヨシノ、130 種のツツジ等も楽しむことができるだけでなく、区が誇るポニーランドや、寄贈されたオリーブの木(ブイロクの木)等の名所も揃っている。この公園と一体的に整備し、バリアフリー動線やサイン計画を総合的に見直すことにより、誰もが期待感の高まるランドスケープを経て、児童文学の世界へと引き込まれていく環境となった。

文学館内は、丘の下 の 1 階エントランスから入り、プロジェクションマッピングや展示や読書を楽しみながら上へと登っていくと、3階は丘の上からの展望が望めるカフェとなっており、カフェの客席やテラスからは園内の花々や旧江戸川を見渡すことができる。館内もバリアフリーとし、施設中央にエレベータを配置することで、この一連の豊かな体験を誰もが楽しむことができる。



展望が望めるカフェ



ポニーが来場者を出迎える